

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	SENGSOURIVONG BOUASONE
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Agricultural Production, Irrigation and Interdependency through Transactions in Rural Village: Evidence from Developing Countries			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	市橋 勝 (広島大学大学院国際協力研究科・教授)	印 Seal	
審査委員 Committee	金子 慎治 (広島大学大学院国際協力研究科・教授)		
審査委員 Committee	柿中 真 (広島大学大学院国際協力研究科・教授)		
審査委員 Committee	後藤 大策 (広島大学大学院国際協力研究科・准教授)		
審査委員 Committee	駿河 輝和 (岡山商科大学経済学部・教授)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本学位論文の目的は、1) 途上国における貧困削減にとって灌漑がどの程度有効な政策として評価され得るのか、そして、2) 条件不利地域の人々がどのような経済活動の相互依存関係や互惠性を有しているのか、を実証的に明らかにすることである。</p> <p>論文は全5章で構成されている。第1章は序論で、本研究の目的、課題の設定及び背景説明が行われている。第2章は、農業生産において灌漑がどの程度生産及び消費増大と関連しているのかを、灌漑を導入した家計グループとそれをしない家計グループによって比較分析している。対象国はラオスで、10年間3時点における家計調査データ (LECS) を用いた傾向マッチング (PSM) 法を用いた。第3章は、灌漑の短期効果と長期効果を、同じ LECS データに差の差分分析 (DID) 法を用いて比較分析している。結果はどちらも灌漑が1季節当たり約 650kg~1t の生産増加をもたらすことが明らかになった一方で、消費には有意な効果がないことが分かった。第4章は、対象地域をラオスとベトナムの条件不利地域集落として、集落内外での村民の相互依存関係を分析している。2つの集落で個別に行なった家計調査データに基づき、集落投入産出表と質的投入産出表を作成し両地域での家計間の相互依存関係の分析、中央性指標 CI を用いた売り手と買い手の分類、ネットワーク分析による相互関係の強さと内容を把握している。結果として、家禽の取引が集落内外全取引の約 30~78%を占めた重要な取引となっており、特に集落外取引が 12.5~15.6%の割合を占めていること、先行研究とは異なり必ずしも高所得家計だけが頻繁に取引をしているわけではないことなどが示された。第5章は各章での分析結果から得られた結果をまとめ、含意を述べている。</p>			
【SSCI 査読論文 (Q2,IF:2.592)】			
Bouasone Sengsourivong & Masaru Ichihashi, "Effectiveness of Irrigation Access on Sticky Rice Productivity: Evidence from Lao PDR", <i>Sustainability</i> , 11(20), 5839, pp.1-18, 2019.			